

仏様のおはなし新シリーズ第50集その1 「人生の課題」

皆さんは誰かと約束をする時に、「絶対」「必ず」といった言葉を使いませんか？

はたして私達の人生において、絶対や必ずといった確かなものはあるのでしょうか。

仏教をお説きになられたお釈迦様は、「諸行無常」¹「すべてのものは、瞬間々に変化し続けているということ」と、「諸法無我」²「すべてのものには、永遠に変わらない実体(我)は無い」と、お示し下さっています。

残念ながら私達に確かなものは、一つもありません。

若さもいつまでも続きません。いくら拒んでも毎年歳をかさね、老いている事をじわじわと感じてきます。

健康はどうでしょう？健康も確かなものではありません。一たび病(やまい)がおそいかつかてくれば、昨日までの健康がうそのように、病床の人とならなければなりません。

この大切な命でさえ、いつかはつゆの霏(しずく)が落ちていくように消えていくのです。日々の生活に追われて忙しく動きまわっている時、私達はこの老・病・死を忘れてしまいます。

ですが忘れていても、老・病・死がなくなる事はありません。

そこにどうしようもない不安の根があります。この不安と、どう向かい合い、どう克服するのか、私達が授かった限りのある命、人生の大きな課題ではないでしょうか。

この問題に向かいあい直視する勇気がなく、一生それらの不安から目をそらして生きていこうとされる方もいます。

しかし、どれほど目をそらそうが、逃げまわろうが、老・病・死は私達を見逃してはくれません。

その事を、私達は百も承知のではありません。よく知っているながら目をそらし、逃げ回るとしたら、これほど空(むな)しい人生はありません。

浄土真宗をお開きになられた親鸞聖人様は、この問題の解決に阿弥陀仏のお救いの教えをお示し下さいました。

それは、阿弥陀仏という仏さまが「すべての人を必ず救うという願い(本願)をたて、南無阿弥陀仏の言葉(名号)となり過去・現在・未来へとほたらきかけてくださっている仏さま」なのです。

大きな課題を解決出来ないこの私は、阿弥陀仏の願いに耳を傾け、南無阿弥陀仏のはたらきに安心し、勇気づけられ、自らはやれるだけの事を精一杯やって、せつかくの人生を生き抜こう。

そうすれば、どこで・どのような形で一生を終わろうとも、南無阿弥陀仏のはたらきによって、間違はなく救われる身となり、阿弥陀仏の国(お浄土)に仏さまとして生まれさせて頂けるのです。

